

～9月1日は「防災の日」～

大地震被災経験者に聞く 「被災時にあってよかったもの」調査

～調査対象：震度6(6弱)以上の地域の被災経験者504人～

大地震の時に困ったことが「あった」人が93.1%
内容は「生活用水」「トイレ」「飲食用の水」と
“水回り”がトップ3

大地震被災の際の非常持出袋の有無
当時、非常持出袋を「備えていた」人はわずか8.1%
しかし今現在は28.6%（約3.5倍）が備えている

大地震の際、家にあった保存食品
1位「**即席めん**」、2位「缶詰」、3位「お菓子」

大地震を振り返って、あってよかったと思う食品
1位「**即席めん**」、2位「缶詰」、3位「お菓子」

現在、災害に備えている食品
1位「**即席めん**」、2位「缶詰」、3位「即席味噌汁」

大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思うもの
「**懐中電灯**」、「**水**」は必須、
「**携帯ラジオ**」、「**食料**」、「**乾電池**」も重要

大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思う食品
1位「**缶詰**」、2位「**即席めん**」、
3位「**レトルト・無菌パック米飯**」

私たちが忘れてはいけない関東大震災が起きた9月1日は「防災の日」と定められています。そして、この日を挟む8月30日から9月5日までは「防災週間」とされ、今年も全国各地で防災を促すためのさまざまな行事が展開されます。

地方公共団体の防災対策を支援する財団法人 消防科学総合センター（東京都三鷹市、理事長：木下英敏）では、「防災の日」及び「防災週間」にちなみ、阪神・淡路大震災（1995年1月）以降の震度6（6弱）以上の大地震経験者を対象に、被災時の備えについて聞いた「被災時にあってよかったもの」調査を行いました。

対象は20歳以上の男女で、阪神・淡路大震災（1995年1月）、鳥取県西部地震（2000年10月）、新潟県中越地震（2004年10月）、福岡県西方沖地震（2005年3月）、能登半島地震（2007年3月）、新潟県中越沖地震（2007年7月）の経験者としてしました。

調査概要

調査対象 上記大地震の際、震度6（6弱）以上の地域に住んでいて、電気、ガス、水道が止まるような被害を受けた経験のある20歳以上の男女。

合計 504 サンプル

調査対象の抽出方法

STEP 1 上記大地震の際、震度6（6弱）以上を観測した地域の20歳以上男女 Web アンケートパネル10,000人に対し、メールにて、被災経験の有無、および今回のアンケートへの協力可否を確認するスクリーニングアンケートを実施。

STEP 2 STEP 1で協力の返信があった人の中から、上記大地震の「被災経験あり」と回答した人を抽出し、本調査の対象者とする。

調査方法 スクリーニングで抽出された「被災経験がある人」に対し、メールにてアンケート。ページのURLを告知。Web上のアンケートページにて回答を得る。

調査期間 2007年8月11日～8月13日

回答者の属性（504 サンプル）

男性：50.6%、女性：49.4%

未婚（当時）：36.7%、既婚（当時）：63.3%

年齢（当時）

20代以下：27.2%、30代：31.3%、40代：28.6% 50歳以上：12.9%

調査結果のダイジェストは以下の通りです。詳細につきましては別添の調査報告書をご参照ください。

．大地震による被災の状況

大地震の際、困ったことがあったか

「あった」という人が 93.1%

どんなことに困ったか

「生活用水（洗面、洗濯、入浴）」（65.5%）、「トイレ」（54.4%）

「飲食用の水」（53.5%）など、“水回り”がトップ3

最初に、「大地震の際、困ったことがあったか」と聞きました。その結果、「あった」とした人が9割を超え（93.1%）、「特になかった」（5.8%）という人は少数派でした。

次に あった とした人に対し、「どんなことに困ったか」を聞くと、最も多かったのが「生活用水（洗面、洗濯、入浴）」（65.5%）で、以下、「トイレ」（54.4%）、「飲食用の水」（53.5%）の3項目が過半数を超える人にあげられ、いわゆる“水回り”の被害が深刻であったことが分かりました。以下は「家族との連絡」（47.1%）、「食料」（33.0%）、「燃料」（23.2%）と続いています。

．大地震に対する備え

大地震の際、「非常持出袋」を備えていたか

「備えていた」という人はわずか8.1%

しかし今現在は28.6%（約3.5倍）が備えている

災害時など、いざというときにすぐ持ち出せるよう、保存食品や災害用品を入れておく「非常持出袋」があります。ここではその「非常持出袋」について、経験した大震災の際に備えていたかどうかを聞きました。

その結果、「備えていた」という人はわずか8.1%で、「備えていなかった」という人が90.1%にのびりました。

では、今現在はどうかを尋ねたところ、約3.5倍の28.6%の方が「非常持出袋」を備えていました。

．被災時の備蓄食品の状況

大地震に被災した際、家にあった食品

「即席めん(カップめん・袋めん)」(77.6%)がトップ、
以下「缶詰」(71.0%)、「ビスケットなどお菓子」(60.5%)など

一般的な保存食品をいくつかあげ、「経験された大地震の際、お宅には次の食品があったか」
を聞きました。

その結果、「あった」とされたもののうち、最も多かったのが「即席めん(カップめん・袋めん)」(77.6%)で、以下、「缶詰」(71.0%)、「ビスケットなどお菓子」(60.5%)、「即席味噌汁」(51.6%)、「レトルトカレー」(38.9%)、「レトルト・無菌パック米飯」(24.0%)が続いています。保存食の代名詞とも言える「乾パン」をあげた人は7.5%と少数派でした。

大地震を振り返って、あってよかったと思う食品

「即席めん(カップめん、袋めん)」(57.5%)がここでもトップ
以下「缶詰」(53.4%)、「ビスケットなどお菓子」(41.1%)など

前項と同じ保存食品をあげ、「大地震を振り返って、あってよかったと思う食品」を聞きました(複数回答)。

その結果はほぼ「あった」食品とほぼ同じ順位で、1位は「即席めん(カップめん・袋めん)」(57.5%)以下「缶詰」(53.4%)、「ビスケットなどお菓子」(41.1%)、「レトルト・無菌パック米飯」(37.7%)、「レトルトカレー」(26.8%)、「即席味噌汁」(25.8%)などが続いています。なお「乾パン」は16.5%でした

今後の災害対策に求められる備蓄食品

現在、災害に備えて備蓄している食品

「即席めん(カップめん・袋めん)」(65.5%)がここでもトップ、
「缶詰」(63.3%)、「即席味噌汁」(46.8%)などが続く

大震災被災経験者の貴重な体験から、保存食品の備蓄状況について聞きました。

前項と同じ食品をあげ、「大地震などの災害に備えて次の食品を備えているか」を聞きました。

その結果、「備えている」とされたものは、ここでも「即席めん(カップめん・袋めん)」(65.5%)がトップで、以下、「缶詰」(63.3%)、「即席味噌汁」(46.8%)、「ビスケットなどお菓子」(46.6%)、「レトルトカレー」(39.5%)、「レトルト・無菌パック米飯」(35.7%)などが続いています。

・大地震被災経験者からのアドバイス

大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思うもの

「懐中電灯」(83.5%)、「水」(81.5%)は必須、
「携帯ラジオ」(75.8%)、「食料」(72.4%)、「乾電池」(70.0%)も

大地震被災経験者からのアドバイスとして、一般的な災害用品をいくつかあげ、「大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思うもの」を選んでもらいました。

その結果、8割以上の人に選ばれたのが、「懐中電灯」(83.5%)、「水」(81.5%)で、大地震被災経験者がこの2つを“最も重要”と考えていることが分かりました。

以下、6割以上の人に選ばれたのが、「携帯ラジオ」(75.8%)、「食料」(72.4%)、「乾電池」(70.0%)、「卓上コンロ」(65.9%)、「タオル」(63.5%)、「現金」(63.3%)、「ポリタンク」(62.3%)、「軍手」「救急セット」(ともに60.5%)でした。

大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思う食品

1位は「缶詰」(71.2%)、以下「即席めん」(68.8%)、
「レトルト・無菌パック米飯」(63.3%)など

同じ保存食品をあげ、「大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思う食品」を選んでもらいました。

その結果、第1位は「缶詰」(71.2%)で、以下「即席めん(カップめん・袋めん)」(68.8%)、「レトルト・無菌パック米飯」(63.3%)、「ビスケットなどお菓子」(58.7%)、「即席味噌汁」(44.4%)、「レトルトカレー」(42.9%)が続きました。

「不意の地震に不断の用意」東京有楽町駅そばの数寄屋橋公園にある関東大震災の記念塔に記されている警句です。では、どのような備えが有効なのか、その答えを得る大きな手がかりの一つが経験者の声です。今回の調査では、大地震を経験して非常持出袋を備えている人が増えたこと、一方で、「即席めん」「缶詰」など何気ない日常的な食品の備えも有効だということなどがわかりました。



突然私たちが襲う災害。まず自分や家族が災害から命を守る努力は欠かせません。そして不自由な生活に備える工夫も求められます。その際、「備え」と堅苦しく構えるのではなく、何気ない日常的なものをきらさずに身近に置いておくことも、大きな「備え」になるようです。



この件に関するお問い合わせ先

財団法人 消防科学総合センター

担当：研究開発部 黒田

〒181-0005 東京都三鷹市中原 3-14-1

TEL 0422-49-1113 FAX 0422-46-9940

<http://www.isad.or.jp>

大地震被災経験者に聞く
被災時に“あつてよかったもの”

2007年8月

財団法人 消防科学総合センター

目次

調査企画	1
調査結果の内容	3

大地震被災経験者 504 名に聞く 震災当時の状況

1. 大地震の際、困ったことがあったか.....4

大多数の人が「あった」(93.1%)

困ったことは、「生活用水(洗面、洗濯、入浴)」(65.5%)、「トイレ」(54.4%)、「飲食用の水」(53.5%)の“水関係”が多い。以下、「家族との連絡」(47.1%)、「食料」(33.0%)、「燃料」(23.2%)、「冷暖房」(18.8%)、「避難所など自宅以外での避難生活」(18.1%)など

2. 自分の経験した大地震の際、自宅に「非常持ち出し袋」を備えていたか.....6

「備えていなかった」(90.1%)という回答がほとんどで、準備は不十分だった

「非常持ち出し袋に入っていたものは、「懐中電灯」(90.2%)が最も多く、以下「軍手」(65.9%)、「水」(63.4%)、「食料」(63.4%)、「乾電池」(61.0%)など

その中で、特に役立ったものは、やはり「懐中電灯」(39.0%)が最も多く、以下「水」(31.7%)、「携帯ラジオ」(29.3%)、「軍手」(24.4%)など

3. 自分が経験した大地震の際、自宅にあった食品.....9

最も多かったのは「即席めん(カップめん・袋めん)」(77.6%)で、全体の4分の3以上を占める。以下、「缶詰」(71.0%)、「ビスケットなどお菓子」(60.5%)、「即席味噌汁」(51.6%)、「レトルトカレー」(38.9%)、「レトルト・無菌パック米飯」(24.0%)などの順

4. 大地震を振り返って、あってよかったと思う食品.....11

半数以上が「即席めん(カップめん・袋めん)」(57.5%)、「缶詰」(53.4%)をあげ、役立ち度が特に高かった。以下、「ビスケットなどお菓子」(41.1%)、「レトルト・無菌パック米飯」(37.7%)、「レトルトカレー」(26.8%)、「即席味噌汁」(25.8%)、「乾パン」(16.5%)の順

5. 大地震を振り返って、家の中にあったもので、あってよかったと思うもの.....12

「懐中電灯」(76.4%)が最も多く、以下「携帯ラジオ」(62.1%)、「卓上コンロ」(61.9%)、「ポリタンク」(45.6%)、「毛布」(44.8%)、「運搬用のカートや台車」(15.1%)の順

1 . 現在、「非常持ち出し袋」を備えているか 13

「備えている」(28.6%)のは3割弱で、“経験した大地震の際”に備えていた割合(8.1%)よりかなり増えているが、それでも「備えていない」(71.4%)という方がはるかに多い

「非常持ち出し袋」に入っているものは、「懐中電灯」(89.6%)、「食料」(70.1%)、「携帯ラジオ」(67.4%)、「乾電池」(66.7%)、「軍手」(63.9%)、「ビニール袋」(63.9%)、「水」(63.2%)、「救急セット」(62.5%)、「タオル」(61.1%)などで、“震災時”よりも高率の項目が多い

2 . 大地震などの災害に備えて備蓄している食品 16

「即席めん(カップめん・袋めん)」(65.5%)と「缶詰」(63.3%)が特に高く、以下「即席味噌汁」(46.8%)、「ビスケットなどお菓子」(46.6%)、「レトルトカレー」(39.5%)、「レトルト・無菌パック米飯」(35.7%)、「乾パン」(11.9%)と続く

3 . 大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思うもの 18

「懐中電灯」(83.5%)、「水」(81.5%)、「携帯ラジオ」(75.8%)、「食料」(72.4%)、「乾電池」(70.0%)など、用意しておいた方がよいと思うものは多岐にわたる

4 . 大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思う食品 19

「缶詰」(71.2%)、「即席めん(カップめん・袋めん)」(68.8%)、「レトルト・無菌パック米飯」(63.3%)、「ビスケットなどお菓子」(58.7%)、「即席味噌汁」(44.4%)、「レトルトカレー」(42.9%)、「乾パン」(37.7%)の順で、“現在用意している食品”より高率の項目がほとんど。必要と思いながら、日常利用している食品以外は後手に

調査企画

1. 調査目的

「防災の日」及び「防災週間」にちなみ、阪神・淡路大震災（1995年1月）以降の震度6（6弱）以上の大地震経験者を対象に、地震に遭って困ったことや、準備しておいて助かったことなどについて聞き、震災時の地震に対する備え、またその後の備えの実態を明らかにすることを目的に実施しました。

2. 調査対象

阪神・淡路大震災（1995年）以降の主な大地震の際、震度6（6弱）以上が観測された地域に住んでいて、電気、ガス、水道が止まるような被害を受けた経験のある男女。

なお、阪神・淡路大震災以降の以下の地震を対象地域としました。

- ・ 阪神・淡路大震災（1995年1月）
- ・ 鳥取県西部地震（2000年10月）
- ・ 新潟県中越地震（2004年10月）
- ・ 福岡県西方沖地震（2005年3月）
- ・ 能登半島地震（2007年3月）
- ・ 新潟県中越沖地震（2007年7月）

3. 調査方法

Web アンケート調査。

スクリーニング（事前質問）で抽出された「被災経験がある人」に対し、メールにてアンケートページの URL を告知。Web 上のアンケートページにて回答を得た。

4. 調査実施日時

2007年8月11日（土）、12日（日）、13日（月）

5. 標本構成

有効回収サンプル504名の標本構成は以下の通りです（上段：サンプル数、下段：構成比 %）。

F1. 大地震発生時の年齢 (平均:36.8歳)

サンプル数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
504	16	121	158	144	61	4
100.0	3.2	24.0	31.3	28.6	12.1	0.8

F 2 . 大地震発生時の未既婚

サンプル数	未婚	既婚(離別・死別含む)
504	185	319
100.0	36.7	63.3

F 3 . 大地震発生時の同居家族人数 (平均:3.5人)

サンプル数	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
504	60	83	128	114	61	58
100.0	11.9	16.5	25.4	22.6	12.1	11.5

F 4 . 大地震発生時の住居形態

サンプル数	木造戸建	木造以外の戸建	アパートなど木造集合住宅	マンション	その他
504	291	53	56	88	16
100.0	57.7	10.5	11.1	17.5	3.2

F 5 . 現在の年齢 (平均:40.2歳)

サンプル数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
504	88	154	153	87	22
100.0	17.5	30.6	30.4	17.3	4.4

F 6 . 性別

サンプル数	男性	女性
504	255	249
100.0	50.6	49.4

F 7 . 現在の居住地(都道府県名)

サンプル数	新潟	石川	兵庫	鳥取	福岡	宮城
504	309	36	65	16	76	2
100.0	61.3	7.1	12.9	3.2	15.1	0.4

F 8 . 大地震にあってからの年数 (平均:3.4年)

サンプル数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上
504	109	132	174	22	67
100.0	21.6	26.2	34.5	4.4	13.3

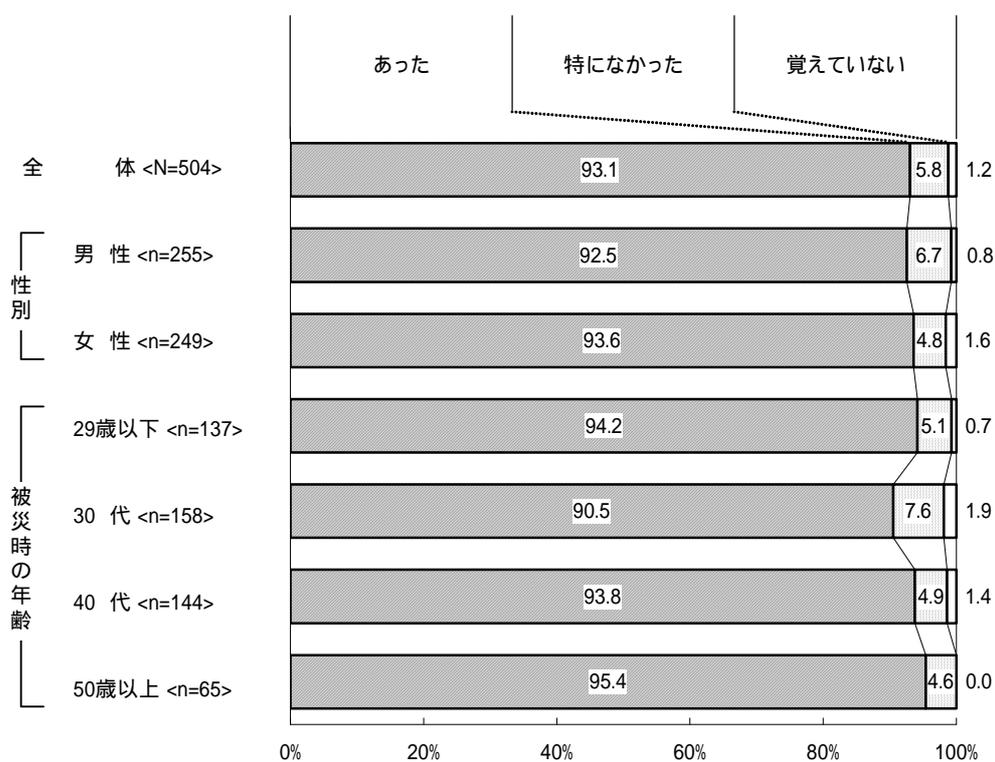
調査結果の内容

1. 大地震の際、困ったことがあったか

大多数の人が「あった」(93.1%)

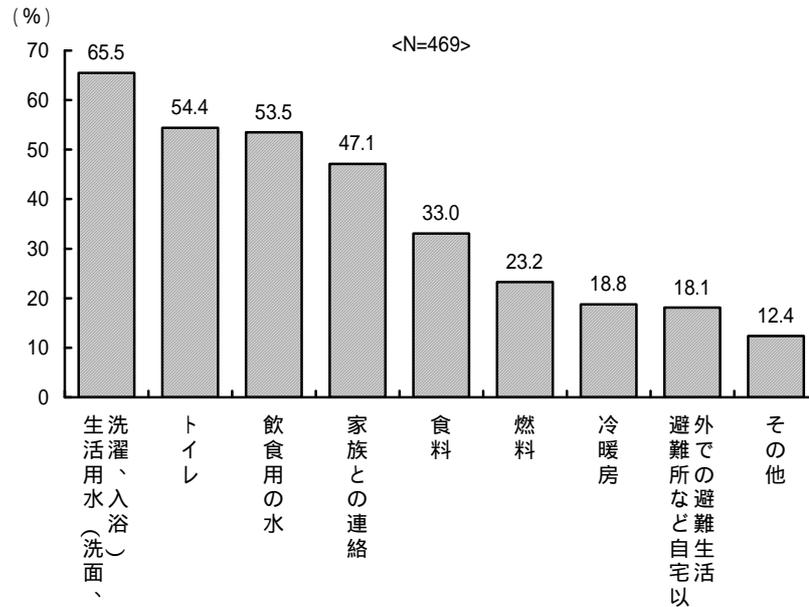
困ったことは、「生活用水(洗面、洗濯、入浴)」(65.5%)、「トイレ」(54.4%)、「飲食用の水」(53.5%)の“水関係”が特に多い。以下、「家族との連絡」(47.1%)、「食料」(33.0%)、「燃料」(23.2%)、「冷暖房」(18.8%)、「避難所など自宅以外での避難生活」(18.1%)など

図 1. 大地震の際、困ったことがあったか



大地震の際、困ったことがあったかどうか聞いてみたところ、「あった」(93.1%)という回答が大多数を占めており、「特になかった」(5.8%)や「覚えていない」(1.2%)という回答はいずれもわずかです。

図 2. どんなことに困ったか (複数回答)



性別	男性 <n=236>	69.1	55.1	53.4	44.1	34.3	22.0	17.8	16.5	12.3
	女性 <n=233>	61.8	53.6	53.6	50.2	31.8	24.5	19.7	19.7	12.4
被災時の年齢	29歳以下 <n=129>	64.3	59.7	56.6	50.4	36.4	15.5	19.4	16.3	14.0
	30代 <n=143>	62.2	49.0	49.0	47.6	29.4	20.3	14.7	19.6	11.2
	40代 <n=135>	63.7	51.9	46.7	48.1	34.1	27.4	20.0	17.0	11.9
	50歳以上 <n=62>	79.0	61.3	72.6	37.1	32.3	37.1	24.2	21.0	12.9

どんなことに困ったかをみると、「生活用水(洗面、洗濯、入浴)」(65.5%)、「トイレ」(54.4%)、「飲食用の水」(53.5%)の3項目は半数以上の人があげており、“水関係”で困った人が特に多かったことが分かります。以下、「家族との連絡」(47.1%)、「食料」(33.0%)、「燃料」(23.2%)、「冷暖房」(18.8%)、「避難所など自宅以外での避難生活」(18.1%)などの順となっています。

なお、「その他」(12.4%)の回答の具体例としては、以下のようなものがみられます。

- ・ 停電
- ・ 余震の不安
- ・ ストレス
- ・ 乾電池不足
- ・ 家の中の片付け
- ・ 携帯電話の充電
- ・ 移動手段
- ・ 道路が寸断され2日家に帰れなかった

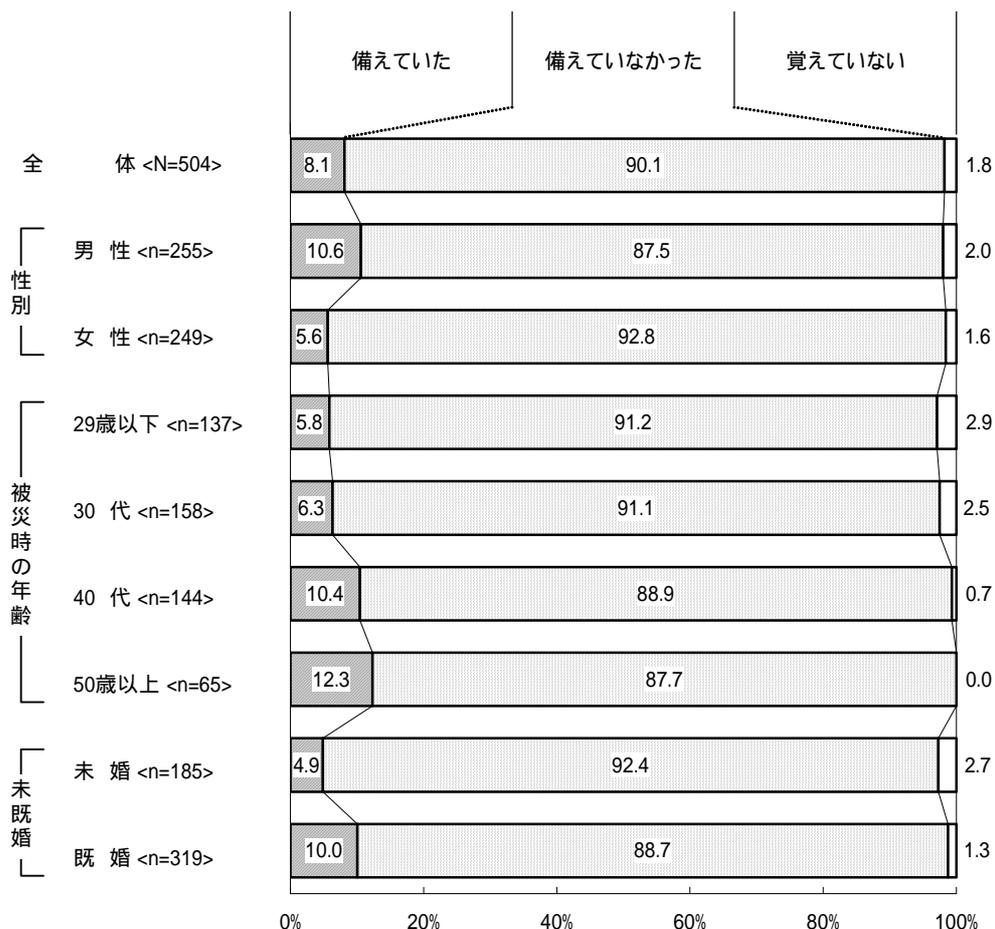
2. 自分の経験した大地震の際、自宅に「非常持ち出し袋」を備えていたか

「備えていなかった」(90.1%)という回答がほとんどで、準備は不十分だった

「非常持ち出し袋」に入っていたものは、「懐中電灯」(90.2%)が最も多く、以下「軍手」(65.9%)、「水」(63.4%)、「食料」(63.4%)、「乾電池」(61.0%)など

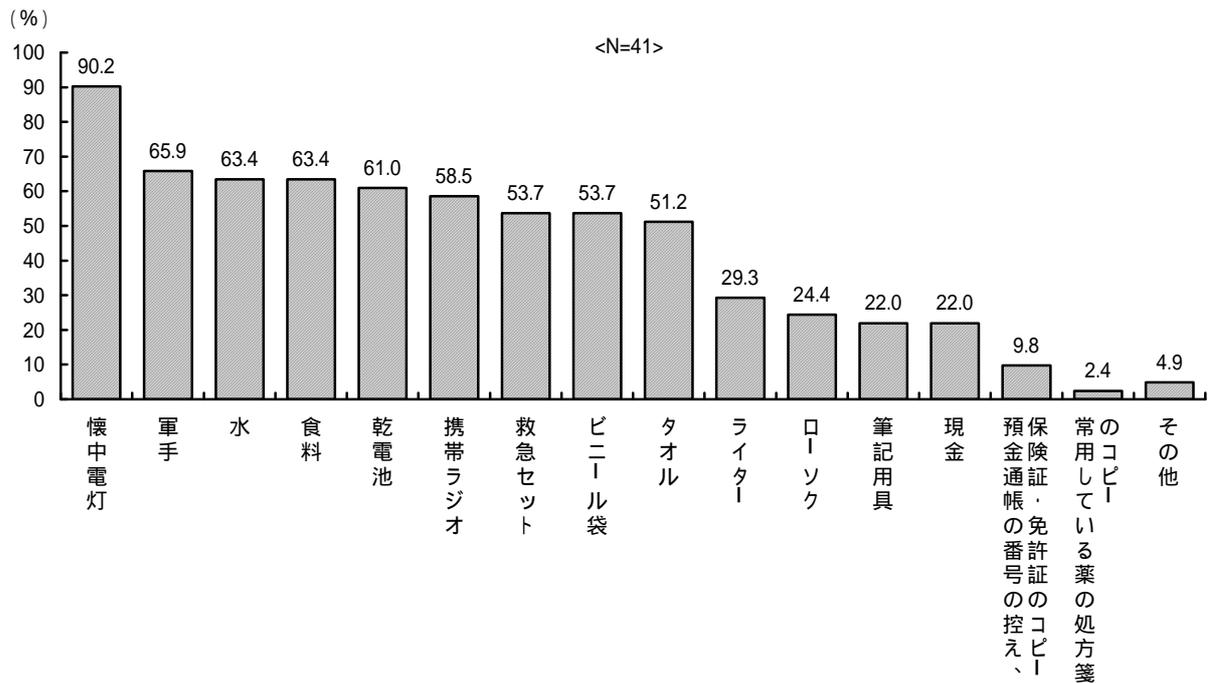
その中で、特に役立ったものは、やはり「懐中電灯」(39.0%)が最も多く、以下「水」(31.7%)、「携帯ラジオ」(29.3%)、「軍手」(24.4%)など

図 3. 自分の経験した大地震の際、自宅に「非常持ち出し袋」を備えていたか



自分の経験した大地震の際、自宅に「非常持ち出し袋」を備えていたかどうかをみると、「備えていた」という人は 8.1%のみで、「備えていなかった」(90.1%)という人が9割を占めており、ほとんどの家庭で準備がされていなかったことが分かります。

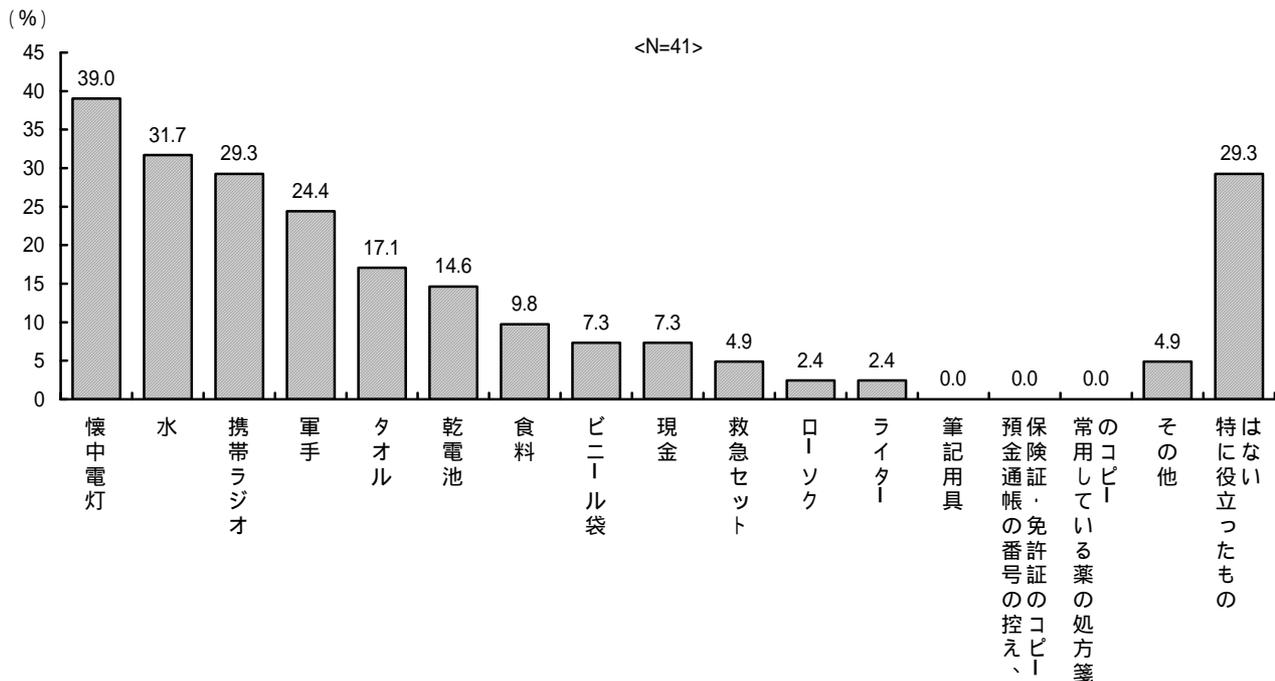
図 4. 「非常持ち出し袋」に入っていたもの（複数回答）



「非常持ち出し袋」に入っていたものは何でしょうか。

「懐中電灯」(90.2%)が最も多く、9割の人があげています。次いで、「軍手」(65.9%)、「水」(63.4%)、「食料」(63.4%)、「乾電池」(61.0%)の4点が6割台、「携帯ラジオ」(58.5%)、「救急セット」(53.7%)、「ビニール袋」(53.7%)、「タオル」(51.2%)の4点が5割台で、以下「ライター」(29.3%)、「ローソク」(24.4%)、「筆記用具」(22.0%)、「現金」(22.0%)などの順となっています。

図 5. 「非常持ち出し袋」に入っていたもので、特に役立ったものは何か（複数回答）



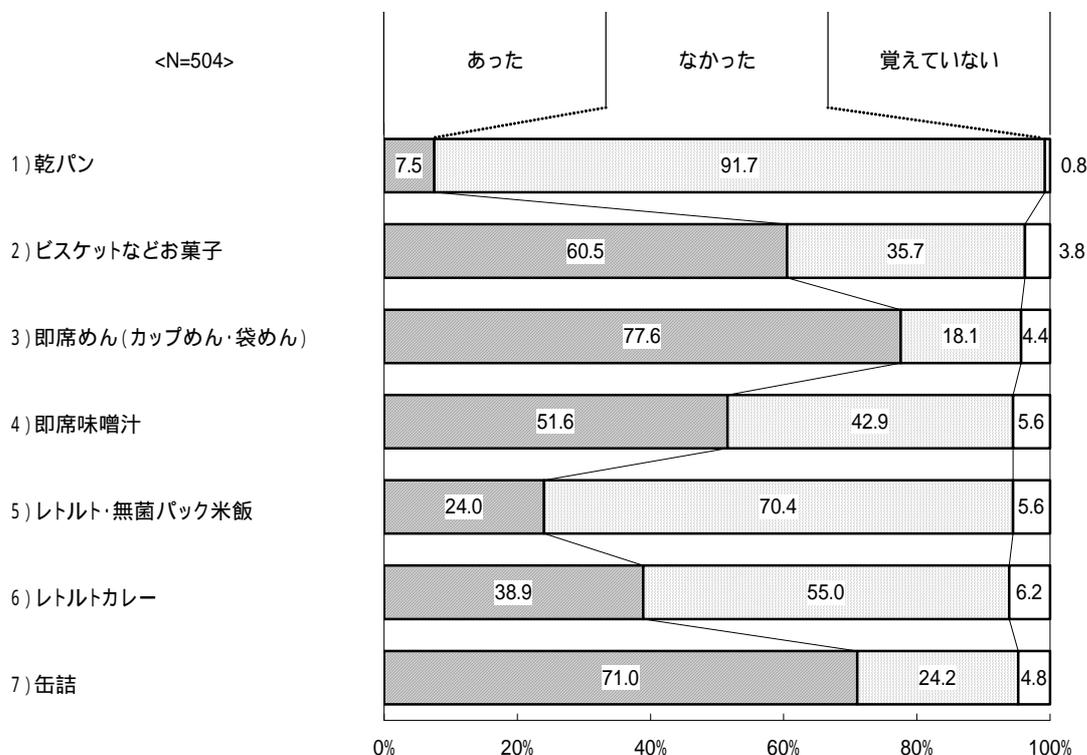
「非常持ち出し袋」に入っていたもので、特に役立ったものは何か聞いてみたところ、実際に入っていた割合の高い「懐中電灯」(39.0%)が最も多くなっており、以下「水」(31.7%)、「携帯ラジオ」(29.3%)、「軍手」(24.4%)、「タオル」(17.1%)、「乾電池」(14.6%)などの順となっています。「特に役立ったものはない」(29.3%)という回答も3割弱みられますが、残りの7割強(70.7%)は何らかの役立ったものをあげています。

なお、そのものが入っていた人を母数として算出した「役立った」割合をみると、「水」(50.0%)、「携帯ラジオ」(50.0%)は、入っていた人の半数が「役立った」と感じたこととなります。以下、「懐中電灯」(43.2%)、「軍手」(37.0%)、「タオル」(33.3%)、「現金」(33.3%)などの順です。

3. 自分が経験した大地震の際、自宅にあった食品

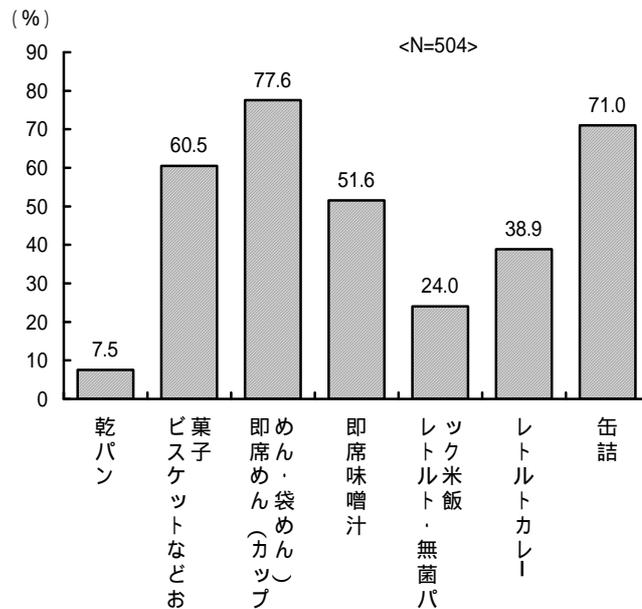
最も多かったのは「即席めん(カップめん・袋めん)」(77.6%)で、全体の4分の3以上を占める。以下、「缶詰」(71.0%)、「ビスケットなどお菓子」(60.5%)、「即席味噌汁」(51.6%)、「レトルトカレー」(38.9%)、「レトルト・無菌パック米飯」(24.0%)などの順

図 6. 自分が経験した大地震の際、自宅にあった食品



自分が経験した大地震の際、自宅にあった食品は何だったか、一般的な保存食品について聞いてみました。「あった」割合が最も高いのは「即席めん(カップめん・袋めん)」(77.6%)で、全体の4分の3以上を占めています。次いで、「缶詰」(71.0%)も7割強と、「即席めん」に近い割合です。以下、「ビスケットなどお菓子」(60.5%)、「即席味噌汁」(51.6%)、「レトルトカレー」(38.9%)、「レトルト・無菌パック米飯」(24.0%)などの順で、「乾パン」(7.5%)は1割未満にとどまっています。

図 7 . 経験した大地震の際、自宅にあった食品（属性別「あった」割合）



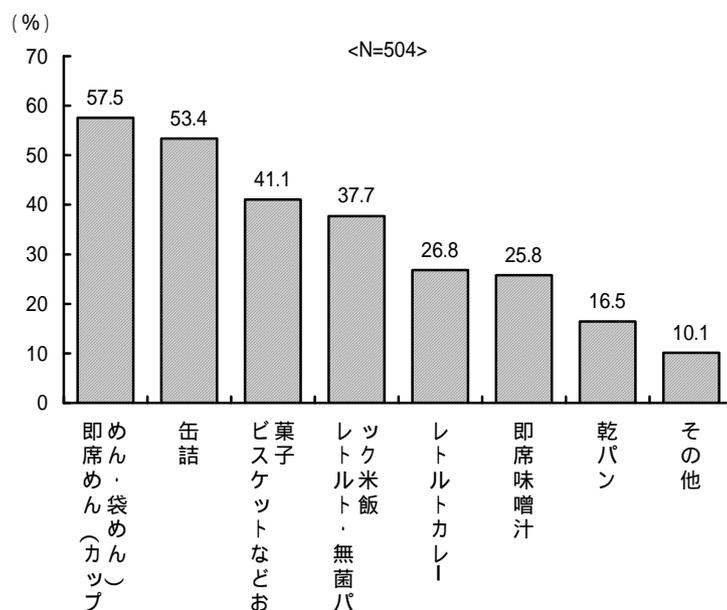
性別	男性 <n=255>	9.4	58.0	81.2	56.1	26.7	40.0	73.3
	女性 <n=249>	5.6	63.1	73.9	47.0	21.3	37.8	68.7
被災時の年齢	29歳以下 <n=137>	5.8	56.2	77.4	48.9	21.9	36.5	69.3
	30代 <n=158>	5.7	63.3	72.8	48.7	22.2	34.8	67.7
	40代 <n=144>	9.0	64.6	82.6	51.4	28.5	45.8	72.9
	50歳以上 <n=65>	12.3	53.8	78.5	64.6	23.1	38.5	78.5
未婚	未婚 <n=185>	5.9	51.4	77.8	54.1	24.3	34.6	66.5
	既婚 <n=319>	8.5	65.8	77.4	50.2	23.8	41.4	73.7

性別で見ると、総じて《男性》の方が高めで、特に「即席めん（カップめん・袋めん）」や「即席味噌汁」は《男性》の率が《女性》よりも10ポイント近く高くなっています。

4. 大地震を振り返って、あってよかったと思う食品

半数以上が「即席めん(カップめん・袋めん)」(57.5%)、「缶詰」(53.4%)をあげ、役立ち度が特に高かった。以下、「ビスケットなどお菓子」(41.1%)、「レトルト・無菌パック米飯」(37.7%)、「レトルトカレー」(26.8%)、「即席味噌汁」(25.8%)、「乾パン」(16.5%)の順

図 8. 大地震を振り返って、あってよかったと思う食品(複数回答)



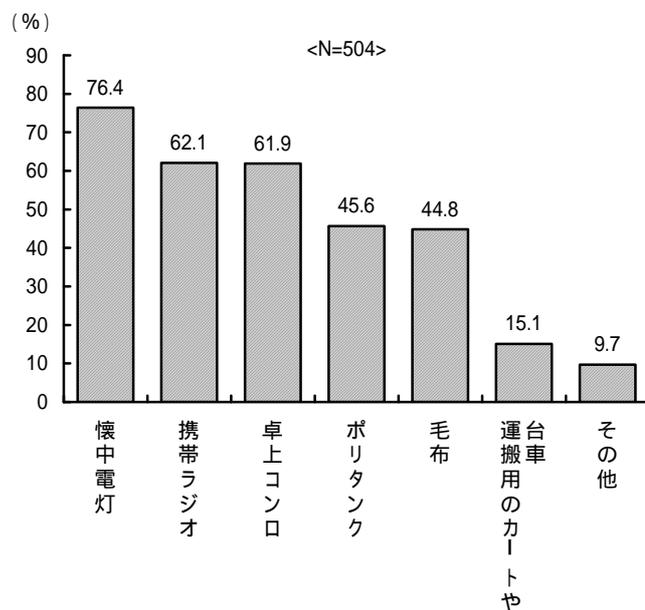
性別	男性 <n=255>	58.4	54.5	36.5	37.6	25.5	20.0	18.8	7.5
	女性 <n=249>	56.6	52.2	45.8	37.8	28.1	31.7	14.1	12.9
被災時の年齢	29歳以下 <n=137>	49.6	48.9	43.1	38.7	32.1	28.5	16.8	15.3
	30代 <n=158>	57.6	46.2	41.8	34.8	21.5	24.1	15.2	6.3
	40代 <n=144>	64.6	57.6	38.2	41.0	25.7	22.9	14.6	9.0
	50歳以上 <n=65>	58.5	70.8	41.5	35.4	30.8	30.8	23.1	10.8
未婚	未婚 <n=185>	50.3	48.1	36.8	35.7	25.9	20.5	14.6	11.9
	既婚 <n=319>	61.8	56.4	43.6	38.9	27.3	28.8	17.6	9.1

前項と同じ保存食品をあげ、大地震を振り返って、あってよかったと思う食品を聞いたところ、「即席めん(カップめん・袋めん)」(57.5%)と「缶詰」(53.4%)が多く、実際に常備していた割合が高いだけでなく、非常食として役に立ったことがうかがえます。以下、「ビスケットなどお菓子」(41.1%)、「レトルト・無菌パック米飯」(37.7%)、「レトルトカレー」(26.8%)、「即席味噌汁」(25.8%)、「乾パン」(16.5%)の順です。

5. 大地震を振り返って、家の中にあったもので、あってよかったと思うもの

「懐中電灯」(76.4%)が最も多く、以下「携帯ラジオ」(62.1%)、「卓上コンロ」(61.9%)、「ポリタンク」(45.6%)、「毛布」(44.8%)、「運搬用のカートや台車」(15.1%)の順

図 9. 大地震を振り返って、家の中にあったもので、あってよかったと思うもの(複数回答)



性別	男性 <n=255>	76.1	63.1	58.8	46.7	40.0	15.3	7.5
	女性 <n=249>	76.7	61.0	65.1	44.6	49.8	14.9	12.0
被災時の年齢	29歳以下 <n=137>	77.4	55.5	56.2	39.4	51.1	14.6	8.0
	30代 <n=158>	70.3	57.6	63.3	47.5	48.7	13.9	10.1
	40代 <n=144>	76.4	66.0	62.5	43.1	34.7	13.2	12.5
	50歳以上 <n=65>	89.2	78.5	69.2	60.0	44.6	23.1	6.2
未婚	未婚 <n=185>	71.4	56.8	57.3	38.9	44.9	16.2	11.4
	既婚 <n=319>	79.3	65.2	64.6	49.5	44.8	14.4	8.8

前項でみた食品以外に、大地震を振り返って、家の中にあったもので、あってよかったと思うものを聞いてみました。

「懐中電灯」(76.4%)が最も多く、以下「携帯ラジオ」(62.1%)、「卓上コンロ」(61.9%)、「ポリタンク」(45.6%)、「毛布」(44.8%)、「運搬用のカートや台車」(15.1%)の順となっています。

なお、「その他」(9.7%)の具体例としては、以下のようなものがみられます。

- ・ウェットティッシュ
- ・ろうそく
- ・キャンプ用ランタン
- ・車から100V電源を取れるインバーター
- ・缶切り
- ・湯たんぼ
- ・ラップ
- ・ワンセグ携帯
- ・バケツ
- ・携帯電話
- ・ホットプレート
- ・車載TV

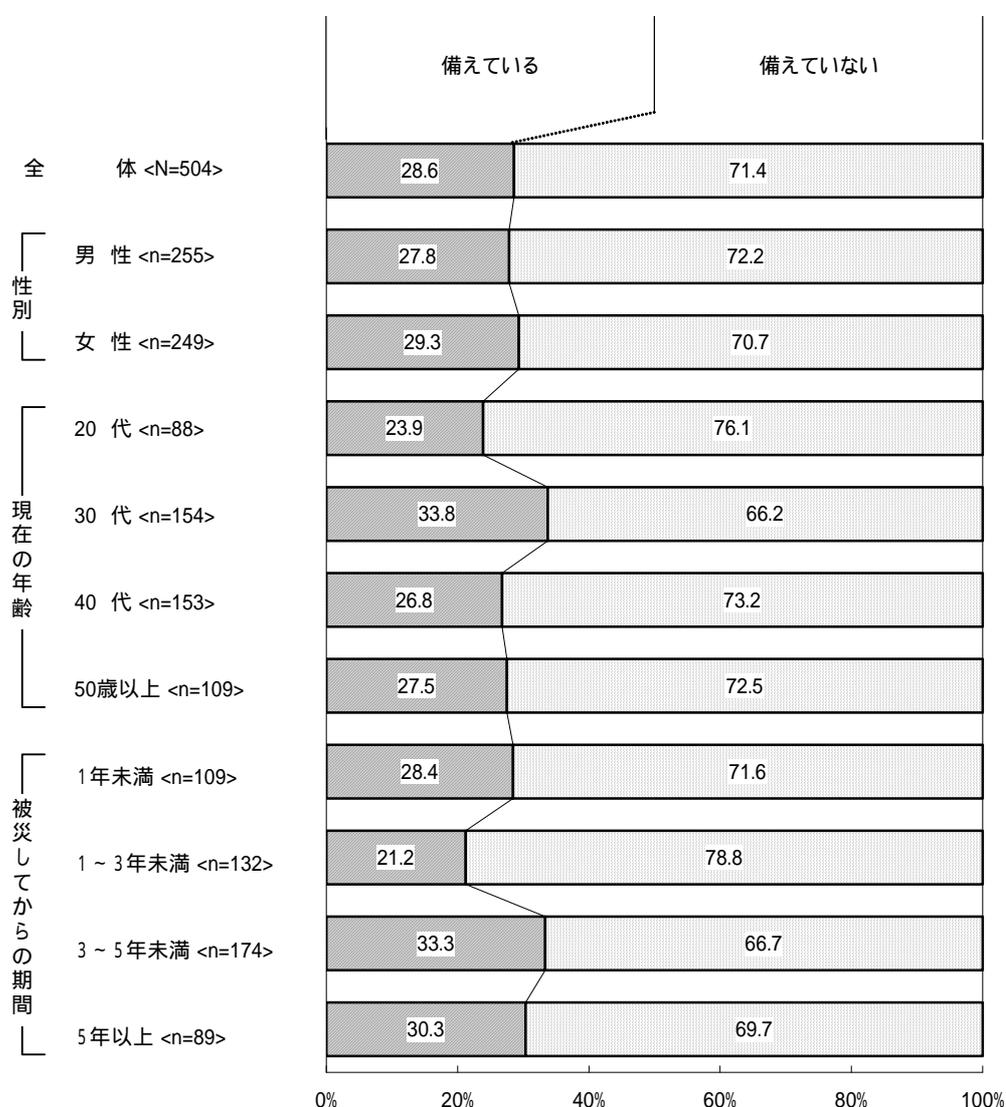
大地震被災経験者 504 名に聞く地震に対する現在の備え

1. 現在、「非常持ち出し袋」を備えているか

「備えている」(28.6%)のは3割弱で、“経験した大地震の際”に備えていた割合(8.1%)よりかなり増えているが、それでも「備えていない」(71.4%)という人の方がはるかに多い

「非常持ち出し袋」に入っているものは、「懐中電灯」(89.6%)、「食料」(70.1%)、「携帯ラジオ」(67.4%)、「乾電池」(66.7%)、「軍手」(63.9%)、「ビニール袋」(63.9%)、「水」(63.2%)、「救急セット」(62.5%)、「タオル」(61.1%)などで、“震災時”よりも高率の項目が多い

図 10. 現在、「非常持ち出し袋」を備えているか



現在、「非常持ち出し袋」を備えているかどうかをみると、「備えている」(28.6%)という人は3割弱で、「備えていない」(71.4%)人の方がまだ大多数です。

“自分が経験した大地震の際”に備えていた割合は8.1%でしたので、3.5倍になっており、実際に大地震を経験

することにより、地震への備えをするようになった人が多いことがうかがえます。

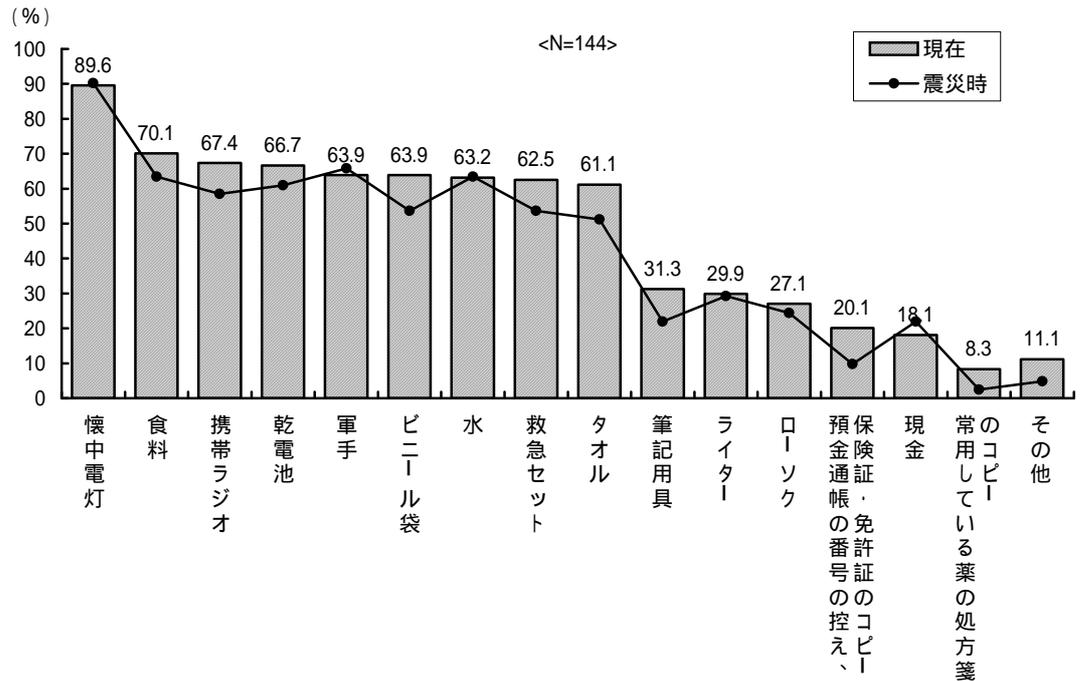
表 1 . 現在、「非常持ち出し袋」を備えているか（被災時の備え状況別）

(%)

		サ ン プ ル 数	備 え て い る	備 え て い な い
全 体		504	28.6	71.4
被 災 時	備えていた	41	82.9	17.1
	備えていなかった	454	23.8	76.2
	覚えていない	9	22.2	77.8

なお、被災時に「非常持ち出し袋」を《備えていた》という人では、現在も「備えている」(82.9%)割合が圧倒的に高いものの、「備えていない」(17.1%)と現在は備えなくなってしまった人も若干みられます。被災時の大部分を占めていた《備えていなかった》層では、2割強が「備えている」(23.8%)に移行しており、その結果常備率はかなり高まったわけですが、残りの8割弱(76.2%)はいまだに「備えていない」ままです。

図 11. 「非常持ち出し袋」に入っているもの（複数回答）



性別	男性 <n=71>	懐中電灯	食料	携帯ラジオ	乾電池	軍手	ビニール袋	水	救急セット	タオル	筆記用具	ライター	ローソク	預金通帳の番号の控え、 保険証・免許証のコピー	現金	常用している薬の処方箋	その他
女性 <n=73>	90.4	64.4	65.8	67.1	65.8	69.9	60.3	65.8	58.9	31.5	24.7	28.8	17.8	17.8	9.6	17.8	

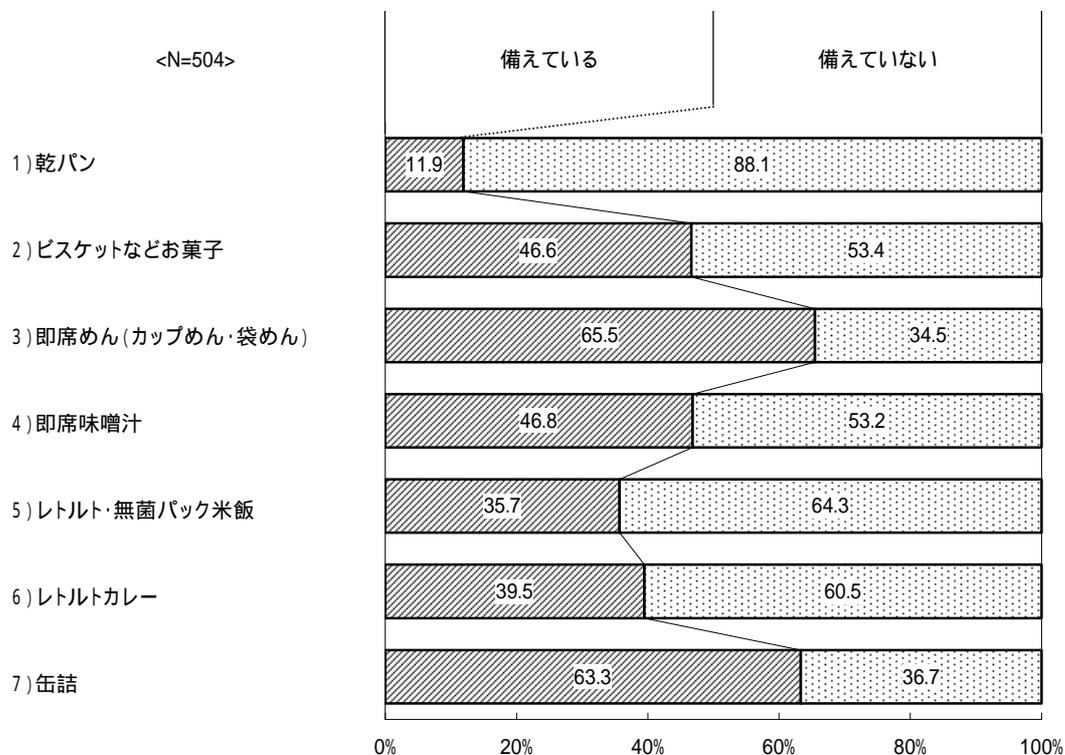
「非常持ち出し袋」に入っているものは、「懐中電灯」(89.6%)が最も多く、以下「食料」(70.1%)、「携帯ラジオ」(67.4%)、「乾電池」(66.7%)、「軍手」(63.9%)、「ビニール袋」(63.9%)、「水」(63.2%)、「救急セット」(62.5%)、「タオル」(61.1%)までの9項目を半数以上の方があげています。

“震災時に入っていたもの”と比べてみると、「携帯ラジオ」(“震災時”58.5%、“現在”67.4%)、「救急セット」(同53.7%、62.5%)、「タオル」(同51.2%、61.1%)、「筆記用具」(同22.0%、31.3%)、「預金通帳の番号の控え、保険証・免許証のコピー」(同9.8%、20.1%)など、“現在”の方が高い割合となっている項目がかなり多くなっています。昨今は震災の備えについての情報も多く、必要と認識するようになった品物が増えたようです。

2. 大地震などの災害に備えて備蓄している食品

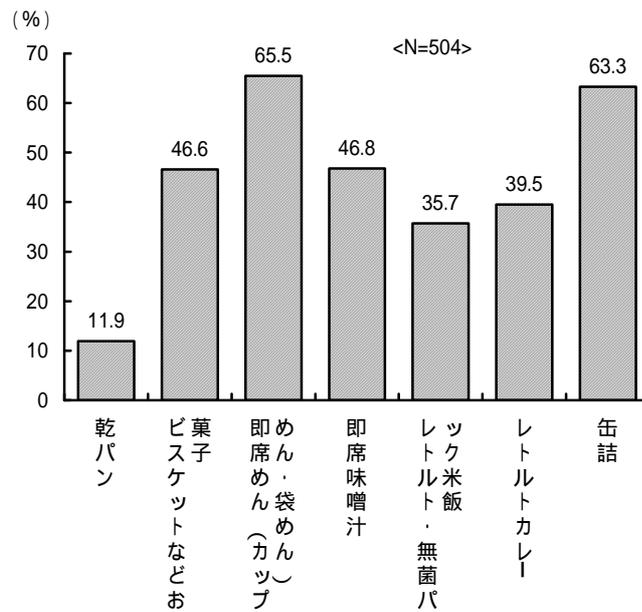
「即席めん(カップめん・袋めん)」(65.5%)と「缶詰」(63.3%)が特に高く、以下「即席味噌汁」(46.8%)、「ビスケットなどお菓子」(46.6%)、「レトルトカレー」(39.5%)、「レトルト・無菌パック米飯」(35.7%)、「乾パン」(11.9%)と続く

図 12. 大地震などの災害に備えて備蓄している食品



大地震などの災害に備えて備蓄している食品をみると、「備えている」割合が特に高いのは「即席めん(カップめん・袋めん)」(65.5%)と「缶詰」(63.3%)で、ともに6割台に達しています。以下、「即席味噌汁」(46.8%)、「ビスケットなどお菓子」(46.6%)、「レトルトカレー」(39.5%)、「レトルト・無菌パック米飯」(35.7%)、「乾パン」(11.9%)と続いています。

図 13. 大地震などの災害に備えて備蓄している食品（属性別「備えている」割合）

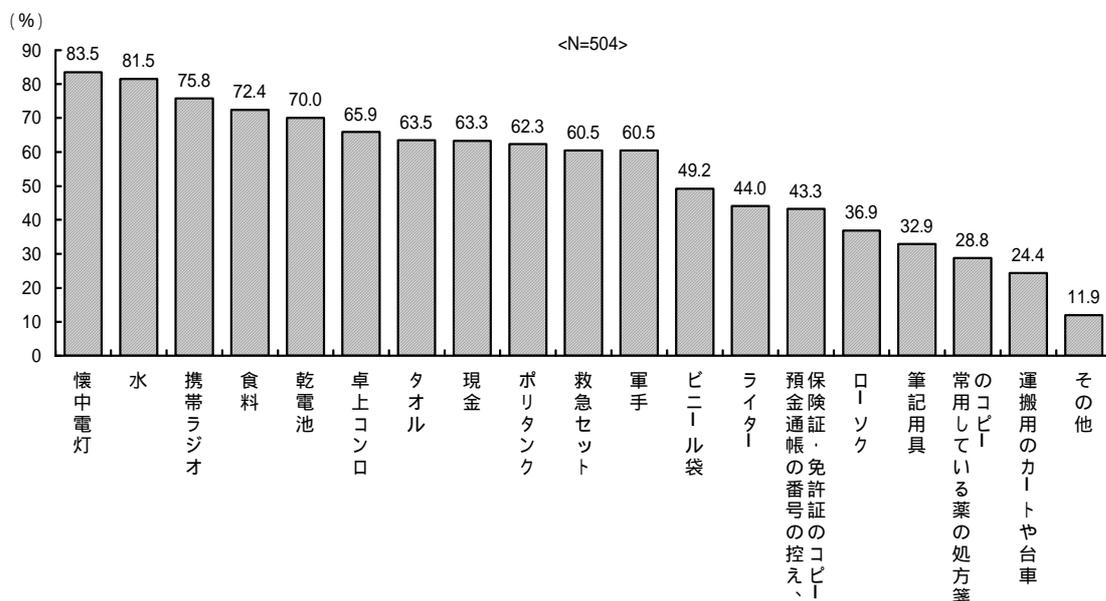


性別	男性 <n=255>	11.8	43.9	65.1	46.3	33.3	38.4	62.4
	女性 <n=249>	12.0	49.4	65.9	47.4	38.2	40.6	64.3
現在の年齢	20代 <n=88>	8.0	48.9	67.0	48.9	31.8	33.0	54.5
	30代 <n=154>	9.1	43.5	63.6	46.8	34.4	36.4	61.0
	40代 <n=153>	12.4	47.1	69.3	41.8	37.9	39.9	64.7
	50歳以上 <n=109>	18.3	48.6	61.5	52.3	37.6	48.6	71.6
被災期間からの	1年未満 <n=109>	10.1	50.5	70.6	48.6	35.8	37.6	66.1
	1～3年未満 <n=132>	13.6	44.7	66.7	43.2	34.8	43.2	62.9
	3～5年未満 <n=174>	11.5	50.6	67.8	50.6	36.8	37.4	63.2
	5年以上 <n=89>	12.4	37.1	52.8	42.7	34.8	40.4	60.7

3. 大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思うもの

「懐中電灯」(83.5%)、「水」(81.5%)、「携帯ラジオ」(75.8%)、「食料」(72.4%)、「乾電池」(70.0%)など、用意しておいた方がよいと思うものは多岐にわたる

図 14. 大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思うもの（複数回答）



性別	男性 <n=255>	79.2	77.6	72.2	67.1	69.0	61.2	56.1	56.5	60.0	51.8	53.7	38.0	38.8	32.2	31.0	24.3	19.6	21.6	9.0
女性 <n=249>	88.0	85.5	79.5	77.9	71.1	70.7	71.1	70.3	64.7	69.5	67.5	60.6	49.4	54.6	43.0	41.8	38.2	27.3	14.9	
現在の年齢	20代 <n=88>	85.2	85.2	69.3	78.4	63.6	62.5	63.6	67.0	55.7	64.8	51.1	43.2	45.5	45.5	31.8	29.5	23.9	18.2	11.4
	30代 <n=154>	84.4	79.2	74.0	71.4	68.8	59.1	62.3	59.1	53.9	59.1	59.7	44.8	44.8	42.2	34.4	28.6	26.0	20.1	11.7
	40代 <n=153>	81.0	81.0	75.8	70.6	68.6	65.4	60.8	62.1	66.0	54.2	58.8	48.4	37.3	37.3	35.3	29.4	22.2	23.5	11.8
	50歳以上 <n=109>	84.4	82.6	83.5	71.6	78.9	78.9	68.8	67.9	74.3	67.9	71.6	61.5	51.4	51.4	46.8	46.8	45.9	36.7	12.8
被災期間からの	1年未満 <n=109>	78.0	82.6	74.3	72.5	70.6	66.1	65.1	57.8	67.0	57.8	63.3	47.7	45.0	33.9	43.1	25.7	21.1	22.0	9.2
	1～3年未満 <n=132>	82.6	83.3	72.7	72.7	72.0	57.6	61.4	62.1	53.0	59.1	50.8	47.0	47.0	44.7	36.4	28.8	29.5	25.8	10.6
	3～5年未満 <n=174>	88.5	80.5	82.8	73.0	69.5	69.5	65.5	65.5	60.9	59.8	58.6	44.8	39.1	42.5	33.9	36.2	29.3	20.1	14.9
	5年以上 <n=89>	82.0	79.8	68.5	70.8	67.4	70.8	60.7	67.4	73.0	67.4	75.3	62.9	48.3	53.9	36.0	41.6	36.0	33.7	11.2

大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思うものとして、「懐中電灯」(83.5%)、「水」(81.5%)が8割を超え、「携帯ラジオ」(75.8%)、「食料」(72.4%)、「乾電池」(70.0%)、「卓上コンロ」(65.9%)、「タオル」(63.5%)、「現金」(63.3%)、「ポリタンク」(62.3%)、「救急セット」(60.5%)、「軍手」(60.5%)までの11項目を半数以上があげています。災害時に必要性を切実に感じた品々なのでしょう。

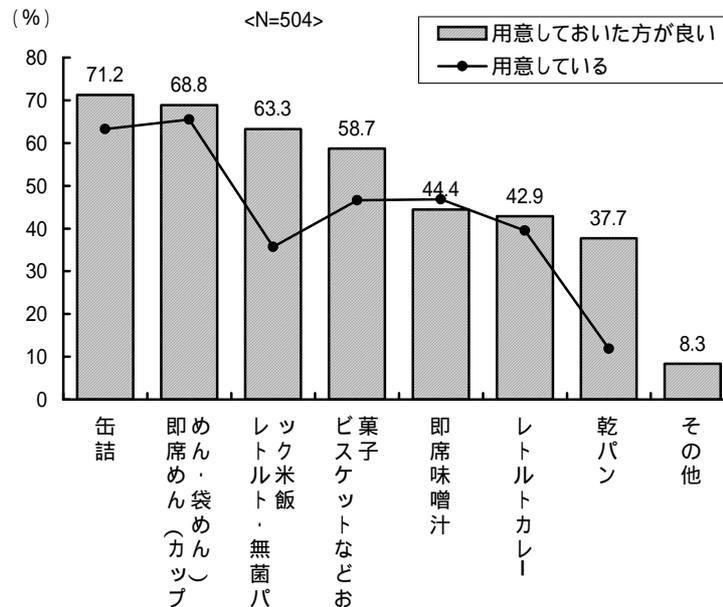
なお、「その他」(11.9%)の具体的な回答は以下の通りで、多種多様なものがあげられています。

- ・ ラップ
- ・ ウェットティッシュ
- ・ トイレットペーパー
- ・ 新聞紙
- ・ ビニールシート
- ・ 簡易トイレ
- ・ オムツ
- ・ 生理用品
- ・ ペットのえさ
- ・ 缶切り
- ・ 携帯電話の充電器
- ・ 車から 100V を取れるインバーター
- ・ 車のガソリン
- ・ 石油ストーブ
- ・ 枕元に靴
- ・ 旅行用ケース(小型)車輪付き

4. 大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思う食品

「缶詰」(71.2%)、「即席めん(カップめん・袋めん)」(68.8%)、「レトルト・無菌パック米飯」(63.3%)、「ビスケットなどお菓子」(58.7%)、「即席味噌汁」(44.4%)、「レトルトカレー」(42.9%)、「乾パン」(37.7%)の順で、“現在用意している食品”より高率の項目がほとんど。必要と思いつながら、日常利用している食品以外は後手に

図 15. 大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思う食品（複数回答）



性別	男性 <n=255>	70.2	66.3	57.3	56.5	39.6	38.4	37.3	7.1
	女性 <n=249>	72.3	71.5	69.5	61.0	49.4	47.4	38.2	9.6
現在の年齢	20代 <n=88>	68.2	64.8	59.1	54.5	48.9	40.9	40.9	8.0
	30代 <n=154>	68.2	70.1	62.3	63.0	48.1	46.1	38.3	7.8
	40代 <n=153>	65.4	71.2	64.1	53.6	35.9	37.3	32.0	8.5
	50歳以上 <n=109>	86.2	67.0	67.0	63.3	47.7	47.7	42.2	9.2
被災期間から	1年未満 <n=109>	65.1	71.6	62.4	54.1	42.2	40.4	41.3	9.2
	1～3年未満 <n=132>	72.7	65.2	64.4	58.3	45.5	41.7	33.3	4.5
	3～5年未満 <n=174>	70.1	74.7	61.5	65.5	45.4	43.7	33.3	10.9
	5年以上 <n=89>	78.7	59.6	66.3	51.7	43.8	46.1	48.3	7.9

大地震などの災害に備えて用意しておいた方がよいと思う食品として、「缶詰」(71.2%)、「即席めん(カップめん・袋めん)」(68.8%)、「レトルト・無菌パック米飯」(63.3%)、「ビスケットなどお菓子」(58.7%)が半数以上、「即席味噌汁」(44.4%)、「レトルトカレー」(42.9%)、「乾パン」(37.7%)が4割前後で並んでいます。

先にみた“現在用意している食品”よりも高率の項目がほとんどで、必要と思うもののまだ用意できていないという実態が見えてきます。あるいは、災害に関わりなく日頃からストックしてある食品と非常用の食品の違いでしょうか。特に、「レトルト・無菌パック米飯」や「乾パン」は差が大きくなっています。